

**J-STAGE**

# 新機能・サービスについて

2013/1/17&18

(独)科学技術振興機構

知識基盤情報部 電子ジャーナル担当



# リリース済 & 近日リリース機能

## リリース済

1. コンテンツ種別ごとの認証設定
2. XML関連機能の改修

## 近日リリース

3. 学協会設定権限の拡大

# 新機能1:コンテンツ種別毎認証設定

- アクセス制限対象の詳細設定が可能に
  - 本文
  - 引用文献
  - 電子付録

※資料単位で設定可能です。

本文PDFにはアクセス制限を掛けたいが、電子付録にはアクセス制限を掛けたくないといった場合には、センター宛にご連絡ください。

## 新機能2:XML関連改修

- 図表関連のファイル名の制約がなくなりました。
- 早期公開・本公開でページ番号と論文番号の併記ができるようになりました。
- 引用文献番号が表示されるようになりました。
- 1文献番号に複数の引用文献が記述できるようになりました。
- スタイルシートの改修を行っています。
  - 行間やスペースや文字飾りやレイアウトについてご要望に基づいて調整を行いました

※資料単位でスタイルシートカスタマイズしていただくことも可能です。

# 新機能3：学協会設定権限拡大

…2013年3月末までにリリース予定

- **奥付変更**
  - 登載者情報など
- **学協会名変更**
  - 法人格変更も含む
- **資料アクセスポリシー設定**
  - (認証なし・認証あり・一部認証)
  - 資料一覧と新規記事作成時の認証設定に反映



# 導入予定/検討 機能&サービス

## リリース時期調整中

4. 書誌画面のコンテンツサムネイル表示

## 導入予定/開発検討中

5. CLOCKSS (ダークアーカイブサービス)
6. J-STAGE Check (仮称: 剽窃検知サービス)
7. XML関連: PMCデータ変換ツール、JATS1.0
8. ORCID (研究者識別子)

# 新機能4：書誌画面のコンテンツサムネイル表示

- 対象論文

- アーカイブ誌の **英文抄録が無い記事**
- 論文1ページ目をサムネイル化、J-STAGE 書誌画面に表示
- 作業はJSTが実施 (学会作業なし)



初期表示時は、  
PDF画像を表示

# 新機能4：書誌画面のコンテンツサムネイル表示2

## • 目的：非日本語圏ユーザ対応

- Googleで検索してきた非日本語圏ユーザにとって、英文抄録が無い記事＝中身が分からない⇨検索ゴミと認識されてしまう場合がある
- それを避けるため、Googleからコンテンツの概要が把握できる程度の論文の第1ページ表示の要望があった
- アーカイブ誌
  - 英文抄録が無い論文が多い
  - 論文の公開制限が無い(除一部学会作成誌)



英文抄録が無い記事の英語画面例





導入予定

新サービス5: **CLOCKSS**  
*Controlled* **LOCKSS**

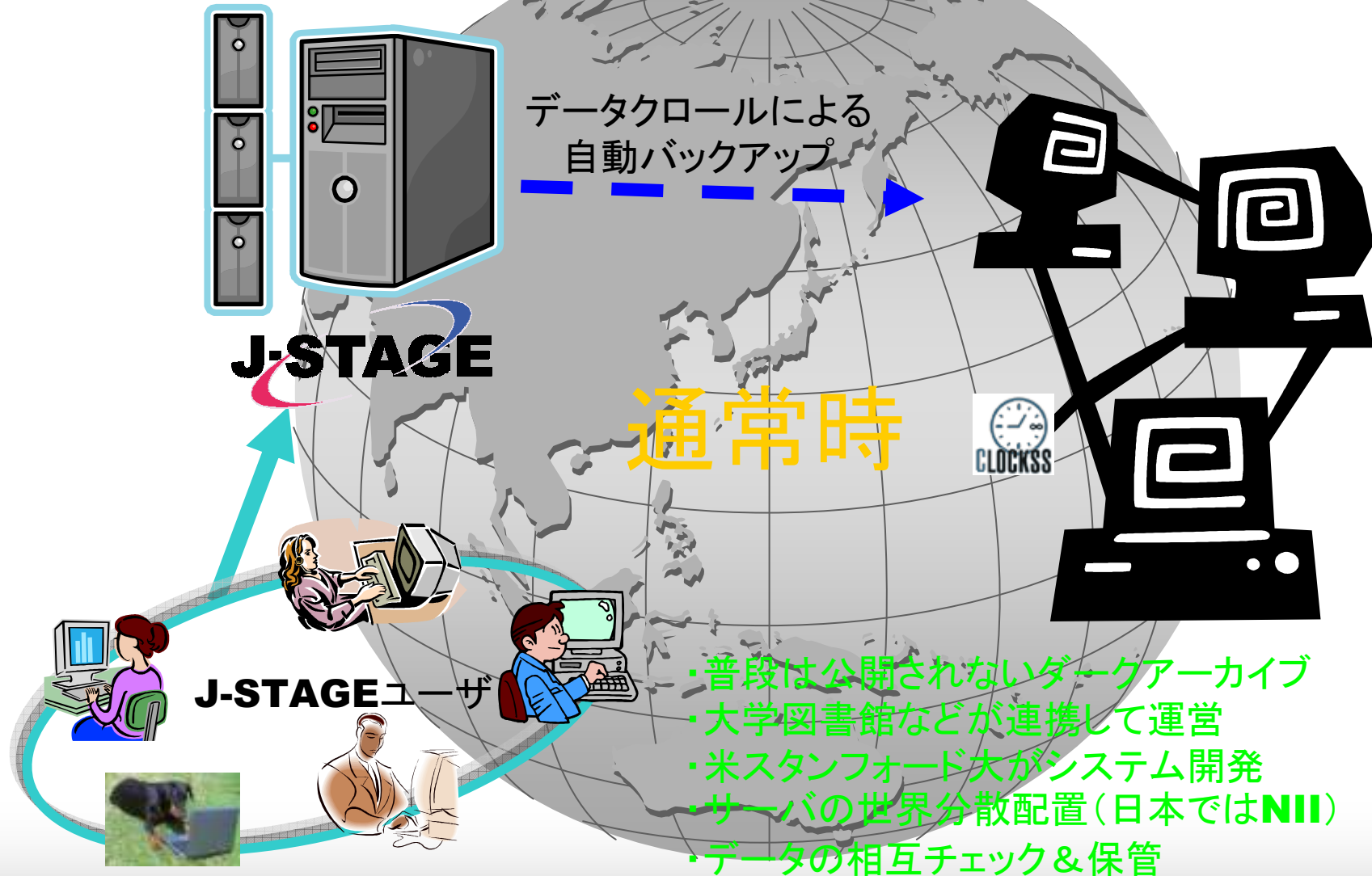
# CLOCKSSの導入について-背景-

- J-STAGEデータのバックアップ



新サービス5

# CLOCKSSのしくみ



データクロールによる  
自動バックアップ

J-STAGE

通常時

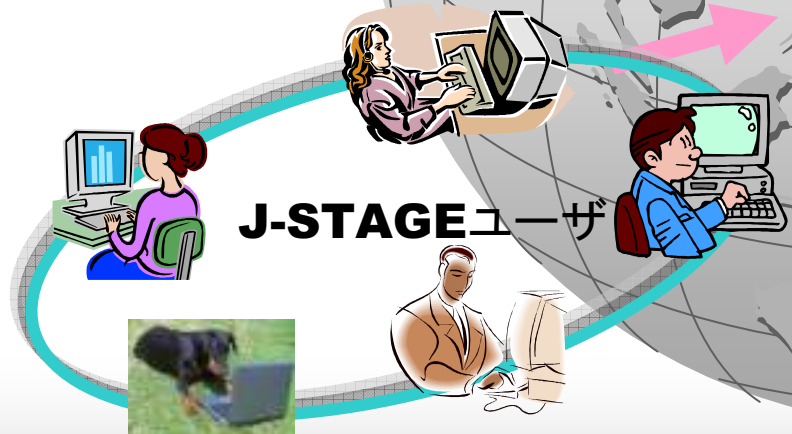
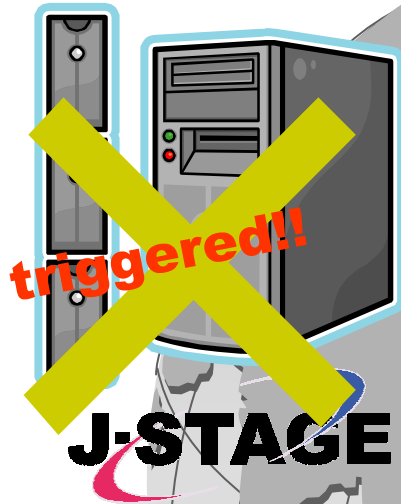


J-STAGEユーザー

- ・普段は公開されないダークアーカイブ
- ・大学図書館などが連携して運営
- ・米スタンフォード大がシステム開発
- ・サーバの世界分散配置(日本ではNII)
- ・データの相互チェック&保管

新サービス5

# CLOCKSSのしくみ2



- ・普段は公開されないダークアーカイブ
- ・大学図書館などが連携して運営
- ・米スタンフォード大がシステム開発
- ・サーバの世界分散配置(日本ではNII)
- ・データの相互チェック&保管
- ・ほとんどの大手商業出版社等が参加

新サービス5

# CLOCKSS利用条件

以下にご同意いただく必要がございます。

- **J-STAGEに早期復旧不可能なトラブルが生じた場合（Triggered時）、コンテンツがCLOCKSSを通じてすべてのインターネット利用者に対し無償で公開されます**
  - トラブル解決後は通常のJ-STAGE公開に戻ります
  - アクセス制限をかけられる仕組みを検討中とのこと
- **会費はJSTが負担、新規発行論文 1報/25\*セントの従量制課金分は学会負担となります**
  - ただし1学会1年間に500報までは無料
  - 既発行分については無料

\* 予定

# CLOCKSS参加方法

- **全学会さまに参加希望を伺います。**
  - 参加/不参加は自由
  - 不参加の場合、J-STAGEトラブル時にコンテンツ提供が中止される可能性があります
  - 参加にはJSTとの覚書締結が必要です
- **参加の手続き等はJSTが一括して実施**
- **データのバックアップ作業もCLOCKSS－J-STAGE間で行います(学会作業なし)**
- **年間500件を超える論文記事分の利用料金についてはCLOCKSSから直接ご請求(予定)**
- **H24～覚書調整 H25中に導入予定**



導入開始/開発検討中

新サービス6: **CrossCheck & J-STAGECheck** (仮称)



# CrossCheckの導入

- **CrossCheckとは？**

- CrossRef提供、iThenticateベースの剽窃チェックツール（CrossRef参加誌のみ利用可）
- 346出版社参加、月間利用6万。7万5000タイトル、3億3600万コンテンツが比較対象DBにインデックスされている。（2012/10現在 CrossRef資料より）

- **J-STAGEへのCrossCheck導入**

- 2012/6より学会さま利用開始
- 2013/1/15現在 29学会50誌(347アカウント)利用  
利用件数=1212件(22学会)



# CrossCheckの導入2

…2012年10月CrossRef資料より

## • CrossCheck新機能

- 図表・画像表示:対象コンテンツで閲覧可能に。(これまではテキストのみ) 2012/12予定
- 抄録・研究方法などをチェック対象から外す/入れるを選択 開発中(一部実現済)
- フレーズ除外:特定の文字列をチェックから除外
- ドキュメントサイズ上限UP:20MB→40MB 但テキスト部分は2MB
- しきい値のカスタマイズ機能:フラグセットの項目・値の選択
- レポート出力レスポンス時間の改善 実現済
- フォルダ、レポートG単位の課金検討中

## • CrossCheck検討中課題

- 翻訳チェック

# J-STAGE**C**heck (仮称) の開発

- **iThenticate/CrossCheck相当機能の剽窃  
チェックシステム**
  - JaLCーDOI付与コンテンツ用
  - 主に和文誌の利用を想定
  - 比較対象DBはiTh/CrChと共有
  - 比較対象コンテンツは全文ではなく重複/類似部分  
付近のスニペット表示の可能性
  - インタフェースの日本語化などを検討中
  - iParadigms社との本格的な打ち合わせを今年度  
末~

# 開発検討中7:XML関連

- **PMC(旧PubMed Central)への論文情報登録データに容易に変換できるツールをご提供する検討をはじめます。**
  - XML推進協議会と連携して進めてまいります
- **JATS1.0準拠する予定です。**
  - 引用文献の複数言語記述や機関著者名の複数言語記述などが正式にサポートされます

# 導入検討中8:ORCID

Open Researcher and Contributor ID

- 世界中の研究者に付与される一意な識別子  
– 同姓同名？表記バリエーション？改姓？
- 2012/10/16 研究者情報DB“Registry”の稼働開始
- 2012/秋～ ScholarOne Manuscripts & Editorial Manager対応

J-STAGEへの導入検討を開始します